

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人道真会
事業所名	グループホーム はぶやま
所在地	松山市高岡町 779番地 6
自己評価作成日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

管理栄養士によるこんだてで栄養管理ができています。団地内にあり、山を背にして、四季折々の景色もたのしめる静かなところですよ。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所では、新たな取り組みとして、地域の方達が散歩途中に休憩していただけるように門扉を20時まで開けておられ、玄関先にはベンチを2台を置き、灰皿・自動販売機を設置されている。 ●玄関先のプランターで野菜を作ったり、隣の畑ではさつま芋を育て、利用者と一緒に収穫する喜びを味わえるよう取り組まれている。収穫したお芋でスイートポテトや芋餅を作り、おやつを楽しまれた。 ●利用者は、ちらし寿司がお好きのようで、月に3回献立に採り入れておられ、季節に合わせ筍、鮭、栗等、具を変えたり、手まり寿司にして楽しまれているようだ。回転寿司、ラーメン、セルフうどん等、外食してお好きな物を食べることもある。調査訪問時、利用者は「お正月には、きんとんやくわいが美味しかった」と利用者と同じ食事を食べながら、職員とお正月の食事の感想を話しておられた。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム「はぶやま」

(ユニット名) 3階 星組

記入者(管理者)

氏 名 柳原 ゆかり

評価完了日

平成24年 12月 20日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			事務所内に理念を掲示し、朝の申し送りの際、唱和し確認しながら業務に取りかかっている。しかし、実際には出来ていない事もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(外部評価)	
			管理者は、理念を再検討されたが、「いつも笑顔、優しさ、思いやり」という現在の理念を「介護の基本」と考えて、理念を継続して「大切に実践に取り組む」とこととされた。管理者は、職員に「体調不良時やイライラするような時にも理念に立ち戻り、感情をコントロールしてほしい」と伝えておられる。新人職員には、学校等で習ったことが現場でのケアにつながるよう、理念にもとづきながら導いておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			季節の行事で交流できる場があれば参加し、理解を広めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 評価への取り組み状況等について報告や話 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 不定期であるが、運営推進会議を開催し、地域の方や参加 できる利用者・職員も話し合いにわり、意見交換している。 内容は議事録として残し、閲覧している。今年は会議の開催 回数が少なかった。	
			(外部評価) この1年間は、体調を崩す利用者が多発し、職員はケアに追 われたこともあり、会議メンバーに向けて会議参加への働き かけが積極的に行えなかったこともあって、会議は開催でき ていない。	事業所のいろいろな事情等もあるだろうが、事業所の現状等 を知ってもらうことも会議の目的のひとつでもある。今後は、 年間計画等を立てて、計画的に会議を開催できるよう取り組 みをすすめていかれてほしい。会議を通じて、困った時に助 け合えるような地域やご家族との関係作り等にも取り組んで いかれてはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 管理者が連絡を密にとり、担当者へ報告している。	
			(外部評価) 市の介護保健課・生活福祉課の担当者の方が、月に一度 と、近くに来られた時にも「変わらないですか」と立ち寄って くださっている。地域包括支援センターから、徘徊中のお年寄 りの捜索依頼を受け、協力されることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 文書や話し合いで、職員同士がお互いに確認しあい、理解 している。施錠については家族様などにも理解いただき、夜 間時間帯により行っている。	
			(外部評価) 管理者は「必要以上の声かけも拘束につながる」と考えてお られ日頃から職員に「焦らず、利用者を見守る」ことの大切さ を話しておられる。落ち着かない利用者の様子がみられる時 には、転落予防のため玄関すぐの非常扉を閉めることもある ようだ。かゆみが生じて皮膚を強く掻く方もおられ、以前はミ トンの手袋を使用していたが、利用者の精神的な負担を軽 減するため「5本指手ぶくろ」を着用してもらうようにされた。 職員が手をさすったり、お好きな人形を抱っこしてもらう等し て気が紛れるよう支援することもある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			研修で学び、職員の話し合いの場で勉強し理解している。 日常の介護で適切な対応が出来るよう情報交換している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			管理者が対応しており、成年後見制度については職員に説明があり、活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			ケアマネージャー、管理者、家族で話し合っており、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			日常の利用者との会話の中で、要望や意見を言えるようにしている。家族会や面会来在時、意見交換している。	
			(外部評価)	
			利用者個々の担当職員が毎月、ご家族にお手紙を書いておられ、その際には、必ず担当者の名前を記載されている。ご家族は担当職員に直接「いつもありがとう」と感謝の言葉をかけてくださることもあるようだ。管理者は「担当職員の名前をご家族に覚えてもらえたことで、要望等を話して下さるご家族も増えた」と感じておられた。ご家族は利用者の様子をみて「椅子に座る時、お尻が痛いと言っているがどうしよう」と相談があったり「靴をまめに洗ってほしい」等の要望があり、職員は、「その後、どのように対応したか」ということをご家族に報告されている。	「お世話になっているから」と意見や要望を出すことを遠慮するご家族の心情等も察して、ご家族が言い出しやすい雰囲気や機会を今後も工夫していかれてほしい。ご家族も一緒に活動するような機会を作ったり、職員の対応等をみていただきながら、ご家族から、より具体的に意見や要望を引き出してみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見 や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に1度、ワーカー会を実施し、職員間で話し合う機会をつ くっている。日常の介護についての報告・相談などをして、 決定した項目は議事録を作り実践につなげている。	
			(外部評価)	
			歌の好きな利用者が多いことから、職員の提案で、午後のお やつの前に、楽器を鳴らしながら利用者のお好きな童謡を 歌う等して楽しむ時間を作っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、 勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やり がいなど、各自が向上心を持って働けるよう職 場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に2回、自己業務管理・評価シートを作成し、業務内容に ついての反省点を記し、次の目標を持てるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	(自己評価)	
			研修予定表を貼っており、個々で受けたいものを希望し、勤 務時間帯、または休みを利用し勉強できるようにしている。 研修後は報告書を作成し、業務に活かせるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取組みをしている	(自己評価)	
			管理者が事務所連絡会などに参加し、交流している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けなが ら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている	(自己評価)	
			管理者や職員が家族と話し合う機会を持ち、安心感を持っ ていただく。調査票を活用し、必要なことを聞き取りながら本 人を知ることが出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			面会時に職員は、本人の生活状況の報告をし、家族から要望があれば聞くようにしている。個人ノートに記録している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			家族や本人から、よく話を聞き、日頃の生活の様子から何が必要かを見極めている。入所前の生活なども含めて本人のことを細かく知り、不安にならないように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			利用者ひとりひとりの気持ちを大切にしながら、ゆっくりと時間をかけて信頼関係を築くようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			季節の行事があれば、家族に案内して参加をお願いしている。家族の方も思いを受け取って欲しいという要望が強くなるので、じっくりと話を伺う機会を持つ。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			面会時に、本人との時間をゆっくり過ごしてもらえるように、散歩や買い物・自宅で過ごすなど自由に楽しまれている。	
			(外部評価)	
			友人が訪ねて来られて居室でお話を楽しまれたり、友人と電話でお話する際には、電話を切る前に、職員から「お顔を見せてくださいね」と、一言添えておられる。ご家族が事業所に足を運んでくださるよう、職員は、利用者に必要な物品を持参いただけるようお願いされている。ご家族が来られて利用者ご本人の散髪をする方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食卓の席替えをしたり、利用者同士が自然なかたちで関わりを持つことが出来るよう職員が間に入っている。ひとりひとりの関わりについて話し合いの場を持っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者がお話しをお聞きしながら、必要に応じて支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の様子をよく観察し、話しの中から思いをくみとり、本人の考えを大事にしながら暮らしを生かしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者との会話から「昔住んでいたところ、小さい時に過ごしたところに行ってみたい。」「どれだけ変わっていてもいいから見てみたい。」「知っている人に会ってみたい」等、希望を探っておられる。童謡「ふるさと」を歌うと、昔のことを思い出され、利用者同士でお話するきっかけにもなるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の調査表に目をとおり、本人の生活の状態などを把握している。フェイスシートなどで確認し本人の生活状態に応じ、環境づくりができるようにしている。ご家族の方に情報をいただいたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間の申し送り、毎日の過ごし方を理解し、変化を見逃さずに介護できるようにしている。できることは、ご自分でしていただくよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			計画作成には、ご家族の意見もとり入れ、利用者様にも参加をいただき話し合っている。状態が変わった時には作成見直しをする。しかし実際には、定期的には出来ていない。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			ご家族の来訪時や月2回程度ご家族へ状況報告する際にケアや暮らしへの要望を聞いておられ、介護計画にも反映するようになっている。毎日、計画の達成状況を「○・×」でモニタリングされており、3ヶ月から半年ごとに計画の見直しを行っておられる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			職員間で話し合いをもち、どのように支援していったらよいかを考えている。出来ることから取り組んではいるが、支援不足のところがある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			静かな環境のなかで、畑や施設の玄関前に季節の草花や作物を植え、楽しめるようにしている。時には利用者と職員がともに作業することもある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			1ヶ月に2回、訪問診療をおこなっており、変化があった場合には、すぐ連絡がとれる体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			利用者は入居時、相談して2週間に1回往診があり24時間対応可能な母体病院をかかりつけ医に変更されている。専門医には、継続してご家族と受診されており、ご家族の都合によって職員が送迎されたり、職員が受診に同行することもある。歯科は、必要に応じて訪問診療も受けることができる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			小さな変化があった時にも見落としがないように職員間で心がけているが、状態が悪くなった場合は、連絡をし、対応できるようにしている。入院した際には細めに病院へ様子をうかがい、医師とも話し合いをする。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			管理者が、本人・家族へ話し合いを行い職員へ報告をしている。看取りはまだ行ったことがない。	
			(外部評価)	
			法人の方針で看とりは支援しないことになっている。在宅酸素を使いながらご家族とともに終末期の利用者を支援した経験もあるが、母体病院の判断で入院となり最期を過ごされたケースもある。利用者に終末期のあり方について希望をお聞きすると「家で死にたい」「痛くないよう、苦しく無いように。」と希望されるようだ。事業所で「看とり支援」について勉強する際、管理者は「看とるのは怖いものではなく、素晴らしいことだ」と思いを職員に伝え、職員の意識の変化を期待されている。今後、馴染みの顔ぶれに囲まれ、住み慣れた事業所で最期まで暮らしたいという利用者、ご家族の希望があった場合、「事業所でどのように支援できるか」ということについて、この機会にご家族も含めて話し合ったり勉強する機会を作ってみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルで確認したり、ワーカー会でも話し合いを定期的におこなっている。実際に急変の場に携わった場合、職員間で話し合い、報告を含め反省し、次への対応に活かしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の定期的な訓練をしており、地域の方との協力体制をとれるように努めている。職員間でも対策を話し合ったりしている。 (外部評価) 山際に立地する事業所でもあり、正面の山の両脇が危険区域になっていることから、大雨の日に、地域の防災士の方が事業所に来てくれて、事業所の「災害対策係」の職員と一緒に周辺の山の様子を見に行ったこともある。自治会の方には、「事業所を開放できる」ことや「米、スポーツドリンク、オムツ等の衛生用品を約1ヶ月分の保管がある」こと等を伝えておられる。消防署の協力のもと日中の火災を想定して避難訓練を行った際には、職員が実際に避難袋を使って訓練を行われ、近所の方も様子をみに来られた。利用者全員が安全に避難できるように、今後も地域との連携や事業所独自でも避難訓練等を重ねていかれてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常時、利用者のことを考えながら、尊敬の気持ちを持ち、丁寧な言葉かけを心がけてはいるが、できない場合もある。プライバシー確保に努めている。 (外部評価) 職員は、居室に入室する際には、必ずノックして利用者から返事があってから入室することを心がけておられる。管理者は「ダメ」等の「マイナス言葉を使わない」よう職員に話しておられる。職員は、「うるたえず、落ち着いて対応し、利用者のしたいことを尊重しながら支援したい」と話されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の意見を聞き出せるよう、優しい声かけをしていくようにしている。普段から、ひとりひとりの話していることに耳をかたむけておき、思いをくみとる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 過ごす場所は限られているので、利用者の方がご自分で気 に入ったところで時間を有意義に使えるよう、思いを聞きな がら介助している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 洗面台やダンス上などに、ご自分で持ってきているものがあ れば置いておき、いつでも使えるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立てを廊下の目のとどくところに貼っておき、分かるように している。テーブル拭き・下膳・お絞りまき・材料の下ごしらえ など、できる方にはしていただいている。 (外部評価) 献立は、母体病院の管理栄養士が立てておられ、食材は地 域の商店から配達される。利用者の希望がある場合は、職 員が管理栄養士の方に伝え、献立に反映してもらうように なっている。利用者は、ちらし寿司がお好きのようで、月に3 回献立に採り入れておられ、季節に合わせ筍、鮭、栗等、具 を変えたり、手まり寿司にして楽しまれているようだ。回転寿 司、ラーメン、セルフうどん等、外食してお好きな物を食べる こともある。調査訪問時、利用者は「お正月には、きんとんや くわいが美味しかった」と利用者と同じ食事を食べながら、職 員とお正月の食事の感想を話しておられた。食後は、お膳を 下げたり、テーブルを拭く利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士の指導の下で行っており、献立に基いてひとり ひとりの食事形態を確認しながら、体調などによっても量 を変えたり、水分量を測っている方もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食事の後に口腔ケアをしている。本人ができる場合には、ケ アできているか確認をしている。口腔内の状態変化など報告 し、受信など必要であればおこない、医師に指示をいただ く。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 生活日誌を用いて、時間帯で排泄時を記入し、パターンをつかみ、職員間で変化があれば話し合いながら支援している。トイレ誘導も定期的に行い、オムツ使用の軽減に努めている。	
			(外部評価) 「夜間トイレまで歩くのはしんどい」等と言われる利用者には、夜間のみポータブルトイレを使用できるよう用意されている。日中、職員は早めの誘導を心がけ、トイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の状態を見ながら、少しでも排泄できるように、個人の健康に気をつかいながら予防している。便秘薬などを服用して、様子を見て取り組んでいる。水分量にも気をつけている。	
			(外部評価) 1週間のうちで入浴する回数は決まっているが、体調や本人の希望をできるだけ見ながら、入浴調整をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1週間のうちで入浴する回数は決まっているが、体調や本人の希望をできるだけ見ながら、入浴調整をしている。	
			(外部評価) 利用者からの希望で入浴回数を増やす場合もある。夏はシャワー浴のみを希望する方もいるが、冬場は、浴槽で温まれるよう支援されている。又、利用者の状態に応じて、1階のデイサービスがあった場所に設置されている特殊浴槽を使って入浴する方も複数おられる。時期によっては、ゆず湯を楽しまれることもある。ご自分のお気に入りのシャンプーを使う方や、皮膚の弱い利用者は刺激の少ない石鹸を使用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、ソファなどに座り休息したり、居室にて休まれたりする方もおられる。夜間は眠剤を服用している方もおられ、優しい声かけを心がけている。居室の明るさなどにも気をつけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬管理表をつくっており、職員が理解できるようにしている。薬の変更があれば、確認することができる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物をたたみ、エプロンたたみなど手伝ってくださる方もいる。レクリエーション(歌やトランプ)を気分転換に楽しむことができている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日に数人ずつ散歩に連れて出かけている。スーパーへ行く(職員と)方もおられたり、面会時に外出・外泊される方もいる。 (外部評価) 利用者は、近くの神社・天満宮・公園に職員と散歩に出かけておられる。お正月には、初詣にも行かれた。1階にあったデイサービスの移動に伴い事業所の使用できる車が小型車1台になり多人数での外出は難しいようだが、利用者の希望等も聞きながら、順番に車で回転寿司や飛行場、海を見に行ったりされている。利用者の体調等も考慮して、1時間程度で出かけられる場所を探して支援されている。調査訪問時には、「私は月2回はスーパーにお菓子を買に行くのよ」と教えてくださった利用者もあった。	利用者からは、「みんなで出かけたい」と希望があり、管理者は、利用者全員での外出の機会を増やしたいと考えておられた。利用者が出かけて楽しめるような機会を作っていけるようサポーターを募ったり、又、外出支援についてはご家族の希望等をお聞きして、一緒に楽しめるような機会等も作っていかれてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお金を管理している方が数名おり、スーパー等で買い物をしている。管理者の方でお金の管理をしており、利用者様の要望により使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望によい、電話をする方もいる。携帯電話を所持している方が数名おり、話をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 直射日光があたらないよう、すだれやカーテンを利用している。月のカレンダーを利用者の方と作成し、季節に応じたものができている。花なども飾っている。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者は、居間でテレビを見たり、ソファーでは利用者同士でおしゃべりして過ごされており、利用者は「明るく日差しが射していて、ソファーに座ると暖かい」と感想を話しておられた。居間には、利用者と職員が折り紙で作った正月用の壁飾りや正月用の花が飾られていた。階段の踊り場や棚には、造花を飾り「明るい雰囲気作り」に取り組まれている。玄関先のプランターで野菜を作ったり、隣の畑ではさつま芋を育て、利用者と一緒に収穫する喜びを味わえるよう取り組まれている。収穫したお芋でスイートポテトや芋餅を作り、おやつを楽しまれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーやテーブル席の好きなところを選び、居場所を確保できている。	
			(外部評価) 本人が使い慣れた家具や飾り小物が居室にあり、使用している。家族様の希望をとり入れ、過ごしやすいようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室にお孫さんやご家族の写真、お好きな歌手の写真を飾っている方もみられた。仏壇を持ち込んでいる方は、毎朝、水をお供えて手を合わせることを続けておられる。山側の居室の利用者は、「今はみかんが生っているでしょう。この部屋からは、山の四季が見えるのよ」と話してくださった。洋服が見えやすいようハンガーに洋服を掛け、ご自分で選ぶことを楽しむ利用者や洗面台に観葉植物を置き、水やりして大切に世話している利用者もいる。各居室に洗面台が設置されている。	
			(外部評価) 廊下や居室で障害となる物を置かないようにして、車椅子や歩行時に動きやすいよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下や居室で障害となる物を置かないようにして、車椅子や歩行時に動きやすいよう配慮している。	
			(外部評価) 廊下や居室で障害となる物を置かないようにして、車椅子や歩行時に動きやすいよう配慮している。	